

二〇一〇年一月二日

匂い立つ水仙峡の急坂に ひかり
 鴨の引く光の水尾や池鏡 " "
 海風やなだるごとく水仙花 " "
 ちぬの海四温の日差しはじきをり " "
 冬晴の大樹鳥語の賑々し " "
 霜柱地球を少しもちあげし よし子
 小雪ふる美容室客吾一人 " "
 仏飯の干からびてをり寒の入 " "
 しぶしぶと炬燵から出る電話口 " "
 若者に座席譲られ温かし 百 姓
 積雪に枝たはみたる大樹かな " "
 占いの館を抜けて初参り " "
 春を待つ花のクロスに取り替へて 菜 々
 蠟梅や四十七士の墓訪へば " "
 姫宮へ寒禽さはぐ男坂 " "
 寒入り日雑木林の丘の上に きづな
 そそくさと終る読経や寒仏間 " "
 余念なき菜畑の手入れ四温晴 " "

お年玉喜ぶ顔に悦こべり 宏 虎
 初日の出波金鱗の夫婦岩 " "
 凍雲に日箭一瞬の茜さす わかば
 盆梅や花芽の立つを見逃さず " "
 煌めくは大パノラマの冬の沖 ぼんこ
 一湾をまたぐ白雲冬の晴 " "
 吉兆のごと夕映ゆる春の海 小 袖
 竹筒の緑がよるし屠蘇祝ふ " "
 寒雀連鎖反応木から木へ こすもす
 絵手紙の余白に健と寒見舞 満 天
 獅子舞の頭はずせば美少年 " "

定例会の選

二〇一〇年一月二日